

幼研だより

【発行所】

久留米市幼児教育研究所
 久留米市荘島町11番地1
 (総合幼児センター2階)
 電話 (0942) 35-3812
 創刊：昭和54年5月15日

令和7年度子育て講演会

講演テーマ：「気になる子どもへのかかわり方」
 ～特別支援保育の基本 子どもの状況の理解等～

令和7年6月21日(土)久留米市の保育士、幼稚園の先生方を対象に子育て講演会を開催しました。今回は、「気になる子どもへのかかわり方～特別支援保育の基本 子どもの状況の理解等～」というテーマのもと、発達障がいに関する講演と、ティーチャー・トレーニングを取り入れたワークを幼児教育研究所の家村明子(医師・主幹)と鬼木美穂(臨床心理士・公認心理師)が行いました。

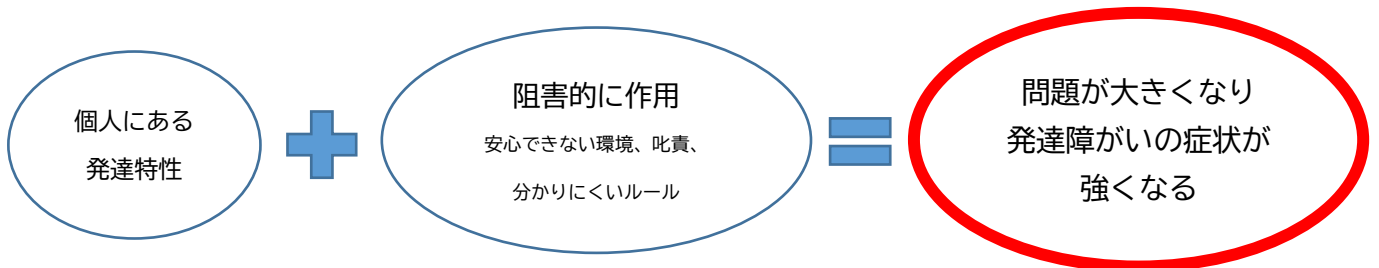
講演：発達が気になる子どもへのかかわり方 ☆一部を抜粋して紹介します

発達障がいとは

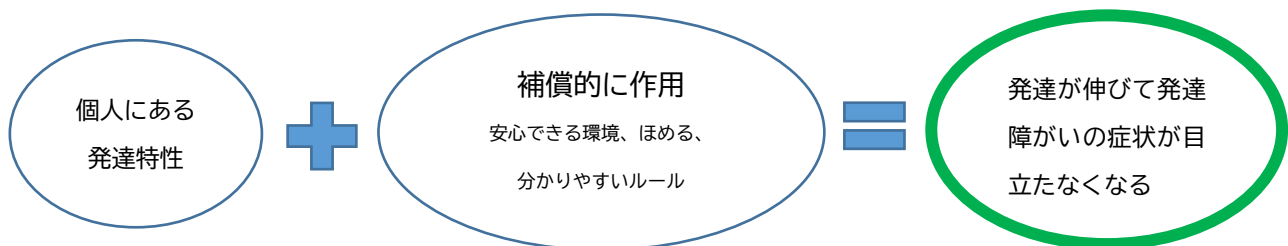
- あるかないかという二者択一ではなく濃淡といった連続性で考える必要がある。
 また、時間経過の中で、こどもの課題が年齢に応じた行動統制やソーシャルスキルに対応して、大きく変容することが大切
- 生活に支障をきたす発達のみが前提であるが、脳機能の問題だけではなく、対人関係や社会的な価値観との関連も深い



発達の特徴は、環境によって引き起こされるものではないが、
 環境の影響を受けることを理解することが重要である



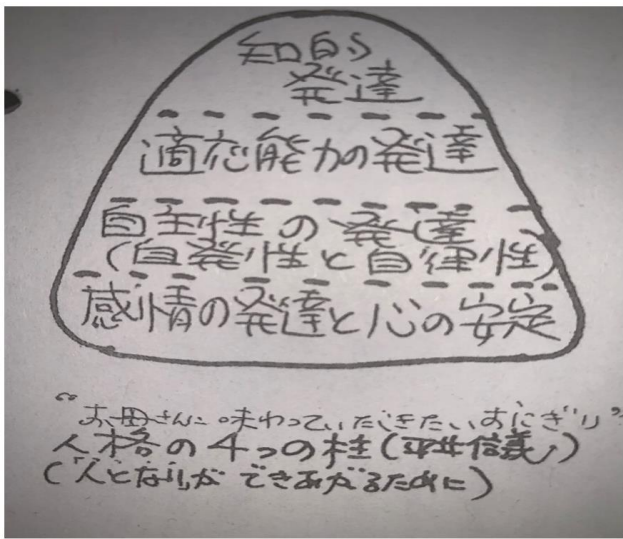
不適切な環境が、困った発達の特徴をより強めてしまう



適切な環境だと、いいところは伸びて、困った発達の特徴は目立ちにくくなる



発達障がいの有無に関係なく、子どもの発達に欠かせない大切な「愛着の問題」



この“おにぎり”の絵は第5代久留米大学小児科主任教授の山下文雄先生が描かれたものです。こどもの発達に欠かせないものは、“おにぎり”の底辺の「感情の発達と心の安定」です。

家庭でも園でも、こどもと親/支援者の間に心の安定があってはじめて自主性や適応能力、知的発達を伸ばすことができます。この基本的な信頼関係はその後のこどもの発達を促すためにとても重要なものとなります。

こども達の支援のゴールは…こどもを社会(地域)に繋ぐこと

こどもの社会って？ ➡ 友達、先生、みんながいる教室

みんなと仲間になるための支援

- 共通言語である診断をもとに
- 優先順位の高い支援から繋ぐ
- こども自身、そして保護者に寄り添う

この達成のためには、それぞれの職種・連携機関の連携が大切！



ワーク：ティーチャー・トレーニング ☆一部、抜粋して紹介します

ティーチャー・トレーニングとは…

こどもの「行動」に焦点をあて、その行動の特徴を理解し、肯定的な注目のパワー(ほめる)を使うことを基本とするもの

行動を3つのタイプに分ける

行動とは…目に見えるもの、聞こえるもの、数えられるもの

好ましい行動 (増やしたい行動)



望ましい、今できている行動
例：自分で着替える、あいさつする

好ましくない行動 (減らしたい行動)



望ましくない行動
例：活動に参加しない、さわぐ

ゆるしがたい行動 (なくしたい行動)



なくしたい行動
例：高い所に登る、物を投げるなど、自分や人を傷つける行動

好ましい行動を増やすには、肯定的な注目をして(ほめて)強化する！

肯定的な注目の種類

- ・ほめる : 「もう片付け始めたの？えらいね」
- ・励ます : 「あと少しだよ、がんばれ」
- ・その行動に気がついていることを知らせる : 「片付け始めたんだね」「ごみ拾ってくれたんだね」
- ・ほほえむ : 同時にVサインやOKサインなどを示しても良い
- ・感謝する : 「お皿運んでくれてありがとう」
- ・興味や関心を示す : 「難しい問題だね」
- ・そっと体に触れる : そっと頭をなでる、肩に手を置く、ハイタッチなど
- ・次の活動に誘う : 今までしていた好ましくない行動を先生はまったく気にしていないこと、水に流れていることを示すことができる

ポイントは、25%ルール(100%まで待たずに)で出来たところをほめる

上林 靖子 (2009)

ほめ方のコツ

タイミング : してほしい行動をしようとしているとき、し始めたとき、しているとき、指示に従ってすぐに動いているとき、してほしくない行動をしていないとき…できるだけ早く、25%ルールでほめる

視線・からだ : 視線を合わせてこどもに近づく、あるいは、こどもを呼んで、こどもと同じ目の高さになる

表情 : 穏やか表情

声の調子 : 穏やかで温かみがある声、あかるい声、気持ちのよい、嬉しいと感じていることを表す

ことば : メッセージは短く、簡潔明瞭に、皮肉・批判は避ける

行動をほめる : こどもの行動をほめる

効果的にほめる : こどもの特性や感じ方、年齢に合わせたほめ方を

「明日もおねがいね」など
余計なことは言わない



上林 靖子 (2009)

好ましくない行動・ゆるしがたい行動の対応の前に、好ましい行動をしっかりと認めて気になるお子さんや集団の雰囲気をもっとよい方向へ導くことで、こどもたちは、自然と楽しく、よい雰囲気の方へ向かっていきます。それでも行動が変わりにくいときには、丁寧な観察やかかわりが必要なことがあります。何かあれば、お気軽に巡回相談や、幼研へご相談ください◎